

【第4次 岐阜県教育振興基本計画】

◆「ふるさと岐阜」で育んだ自信と誇りを胸に、よりよい未来の実現に挑み続ける人
・自立力(主体的に学び、考え、行動する力)
・共生力(つながり、認め合い、支え合う力)
・創造力(よりよい未来を築いていく力)

【校訓】

「一意力行」
～するとよいことを判断し、よりよいものを求め、自ら行動を起こす～

【中津川市 教育の方針】

「よりよいひとりだち」
～生活・学習における基礎基本の習得とたくましい子の育成～
・機能する組織
・面倒見のよい先生
・身につくまで

【生徒の実態】

- ・前向きで落ち着いた学校生活を送ることができる。
・授業に落ち着いて取り組み、仲間と交流をする中で学力を高めていこうとする姿がある。主体性が高まるとよい。
・他者との関係づくりを苦手とする生徒がみられ、不登校傾向の生徒も多い。
・自己肯定感や自己有用感がやや低い。
・粘り強く学習に取り組む姿勢にやや弱さが見られ、学習理解に影響がある。

【学校の教育目標】

自主 (自ら進んで行う生徒)
協力 (責任を果たす生徒)
創造 (鍛え合う生徒)

【職員の姿、指導姿勢】

- ・チームワークはある。どの職員も情熱があり、献身的に行動できる。
・組織で対応していこうとする意識が高く共通行動はできる。
・指導したことに対しては、見届けと評価を常に意識したい。
・温かさとしげさ、導くと委ねることのバランス感のある指導を高めたい。
・授業力をさらに高め、子どもたちの学力を高める責任をさらに意識したい。

【学校経営の信念】可能性を広げ、高めていく学校 ～自ら考え、自ら動き、BRUSH UPできる生徒の育成～

【指導の切り込み口】「BRUSH UP! (磨き上げる)」

【学校経営の3つの施策】

- 1 生徒が主体的に取り組み、見方や考え方を高める授業を位置付けながら指導と見届けを続け、生徒の『学びに向かう力』をBRUSH UPする。
2 するとよいことの判断とそれに基づく行動を養う活動を位置付けながら指導と見届けを続け、生徒の『自己指導能力と自治力』をBRUSH UPする。
3 自己実現と社会参画、人間関係形成を図る活動を位置付けながら指導と見届けを続け、生徒の『協働力と耐性力』をBRUSH UPする。

1 『学びに向かう力』をBRUSH UPします

指標:授業への意欲がある 85%→95%↑
指標:家庭学習の時間以上の実施 74%→100%↑

- (1)坂中授業スタンダードの定着
→仲間を意識した話し方の指導と評価
→話し合いにつながる聞き方向上の指導と評価
(2)生徒の実態を捉えた授業改善の推進
→ゴールを明確にしたねらいと課題
→「わかった、できた」という喜びを生む授業展開
→判断の根拠や過程を大事にする授業展開
→わからないこと、できないことの出
→生徒が自ら考え、行動を起こす時間の確保
→交流の質の向上を目指すひと工夫
(3)粘り強く学習に向かう指導と見届け
→家庭学習の習慣化を図る指導と見届け
→自らの学習習慣をモニターさせ、改善に向かう態度の醸成

2 『自己指導能力と自治力』をBRUSH UPします

指標:生活をふり返り改善しながら生活している 76%→85%↑
指標:学級目標の達成度と個々の自己有用感 80%→100%↑

- (1)半断力と行動力を育む指導の充実
→意味づけ指導を大切に、位置付け、価値付け、方向付けを意識した指導
→自らの生活をモニターさせ、セルフコントロールする力を高める指導の位置付け
(2)願いや想いを表出する学級活動の充実
→位置付け、価値付け、方向付けを意識した指導
→自己表現と他者理解に伴う共感の場の確保
→行動の意味や値打ちを考えさせる指導
→学級目標に込めた願いや想いに立ち返る指導と評価
→合意形成または意思決定を図る解決方法を明確にした話し合い活動の推進
(3)生徒会活動の推進
→生徒が誇れる坂本中らしさ(坂中スピリッツ)の構築
→坂中4本柱「挨拶、授業、合唱、掃除」の充実
→自治力がにじむ生徒集会の位置付け

3 『協働力と耐性力』をBRUSH UPします

指標:周りの人に思いやりをもって生活している 80%→95%↑
指標:欠席率5%以下保持で不登校生徒数の半減

- (1)さらに親身になって取り組む不登校対応
→個々の生徒の実態を把握した不登校対応
→個別支援体制の充実と教育相談力の向上
→不登校生徒に関わる学習の場の工夫
→不登校生徒への学級としての働きかけの工夫
(2)願いや想いを表出する学級活動の充実
→願いと想いを共有し呼応できる集団づくり
→一生懸命と思いやりをためらわない集団づくり
→学級目標を意識した朝の会と帰りの会の充実
(3)特別支援教育の充実
→一人一人の教育的ニーズに応じた指導と評価
→個々の生徒の自立支援に関わる共通理解
(4)安全、安心、心地よい風土の醸成
→安心安全な環境確保につながる指導と見届け
→互いの個性や多様性を認め合う環境づくり

【基盤となる学校の構え】

生徒が誇れる『坂中ブランドと坂中スピリッツ』

自治意識としての坂本中学校らしさの確立
坂中ブランド＝『挨拶、学習、合唱、掃除』
坂中スピリッツ＝

生徒の可能性を広げ、高めていくための『坂中さしすせそ』

さ→坂中4本柱にこだわり、生徒の自信と誇りを高める教職員
し→初動対応を迅速に行い、生徒の安心安全を確保する教職員
す→するとよいことを問いかけ、生徒の判断力を高める教職員
せ→生徒の奥底にある想いに寄り添い、生徒をよりよい方向に導く教職員
そ→組織で対応することを心がけ、生徒の情報共有を素早く行う教職員

《坂本中が目指す指導方向》→[組織力と機動力のある職員集団]

- 生徒の願いや想いを捉え、生徒指導体制の充実努める →「初動対応が遅い、見届けが甘い、継続性が弱い」指導から脱却する。
□生徒や保護者の願いや想いを捉え、教育相談体制の充実努める →生徒や保護者の「不安」を置き去りにし『不満、不信』の想いをもちせない。
□危機管理を意識し、安心、安全な環境整備に努める →安心・安全に生活できる環境を保持するとともに、職員の情報連携、行動連携を高める。
□コミュニティ・スクールを意識した地域とともにある学校づくりに努める →地域の応援団としての学校運営協議会などとの連携を高める。